

評価委員：小島泰明委員、松井弘委員、鈴木猛夫委員、青柳聖真委員 宮崎宏明委員

評価時期 平成30年2月

1 総括的意見

(1) 重点目標1の「豊かな社会性、人間性の育成」について

- ・学校経営方針の第一に「あいさつの励行」を掲げ、代表委員会や全児童が学級毎ごとに輪番で玄関に立ちあいさつをするという「あいさつ運動」に継続的に取り組み、成果を上げつつある。教職員自身あいさつの大切さを忘れず、範を示すことが大事である。また、家庭との連携を図る上で、その取り組みについての発信方法を考える必要がある。

(2) 重点目標2の「基礎基本の確実な定着」について

- ・基礎基本の定着を図るために「個に応じた指導の充実」を最重視している。その結果、保護者の85%が肯定的な評価をしており、ほぼ目標は達成されていた。今後「主体的、対話的、深い学び」という新たな視点も踏まえながらの授業改善に関わる研究実践が継続されることを期待する。

(3) 重点目標3の「生涯を健康に過ごす素地の育成」について

- ・第1回マラソン大会は非常に良かった。次年度は、「走る」にテーマを絞り、年間計画を立てるとのこと。今後、機会づくり、持続性の視点からの改善を期待する。

2 今後の改善に向けた意見

(1) あいさつ運動も含め、地域の力を生かした教育活動の模索する必要がある。

(2) ここ数年、学校が落ち着いている。学習・生活指導に先生方が児童一人一人に向き合っていることが学校公開等からよく分かる。さらなる管理職のリーダーシップと教職員の組織力向上をお願いしたい。

(3) 児童の悩みや不安により寄り添い、問題を早期に発見し見逃さず対応できるための環境作り、そして、校内体制のより一層の確立を目指す必要がある。

3 その他の意見

(1) 来年は130周年を迎え、地域も期待している。学校、保護者、地域が協力して作り上げる周年行事を望む。

(2) 第1回マラソン大会が大成功に終わり、保護者、地域の力を感ずることができた。継続を望む。